

前期始業式式辞（定時制課程）

○この4月から本校の校長になりました、大森と申します。よろしく申し上げます。

8日には、入学式がありまして、新たに168名の皆さんが入学しました。在校生も含めて、皆さん一人ひとりが充実した1年を過ごせるよう期待しています。

○さて、年度初めにあって、今日皆さんにお話ししたいことは、「目の前にあることを、心を込めてやる」ということです。どういうことなのか知ってもらうために、羽田空港で働く新津春子さんのお話をします。

○羽田空港は、イギリスのリサーチ会社が実施する国際空港評価で、世界一清潔な空港に認定されています。それを支えているのが、自分でも清掃する傍ら、約500人の清掃スタッフのトップとして指導にあっている新津さんです。

今46歳。27歳の時に、全国ビルクリーニング技能競技会で最年少で日本一になりました。体力の必要な仕事なので、今でも朝晩、鉄アレーで体を鍛えます。80種類以上の洗剤や薬品を使い分けて、どんな困難な汚れも落とします。清掃器具メーカーとも共同で、空港清掃用の器具の開発にも携わっています。昨年12月にはNHKの番組「プロフェッショナル」で清掃のプロとして紹介されました。しかし、ずっと光のあたる道を歩いてきた人ではないのです。

○新津さんは、70年前の戦争で中国に置き去りにされた「中国残留孤児」の娘です。父は日本人、母は中国人で、生まれ育ちが中国です。もともと日本語は話せません。しかし、中国では「日本人は帰れ」といじめられます。

17歳の時に一家で日本にやってきます。清掃は、高校に通いながら家計を支えるためのアルバイトでした。言葉が話せなくてもできる仕事は清掃くらいだったのです。日本では、中国人と言われ、物がなくなると自分がとったことにされたり、つらい経験をします。

高校を卒業して、音響メーカーに就職しますが、清掃のアルバイトは続けます。あるとき、職業訓練校の生徒募集の張り紙を見て自分のしたい仕事はこれだと思って、会社を辞めて清掃を本格的に学びます。

そこで、講師をしていたのが、日本空港テクノ（株）という会社の、後に新津さんの上司になる、清掃のエキスパートでした。空港での清掃はいろいろ勉強できると聞き、男性しか採用しないところを、「同じ仕事ができれば文句ないでしょう」とその方に無理やり頼んで採用してもらいます。

3年間経ったとき、会社を代表して技能競技会に出ます。しかし、絶対の自信があったのに予選会で2位でした。上司に何がいけなかったのか聞くと、「心を込めてない。急ぐあまり道具を使ったらポンポン置くでしょう。それが心がないってことだよ。道具を作った人が見たらどう思う」と言われます。

それで、心を込めるってどういうことか考え続けます。そして、ある日、空港でお客様の動きをずっと見ていた時に「きれいにしたという自己満足じゃダメで、お客様を喜ば

せる仕事をしないといけない」ということに気づきます。その場所を使う人のことを考えて清掃するようになったと言います。そして、競技会で日本一になります。今では赤ちゃんが床でハイハイしても大丈夫なくらいきれいにしているそうです。

中国では、清掃の仕事というのは社会的に地位の低い仕事だそうです。日本に来て自分で働いたときに、「ああ日本でも同じだ」と一瞬にして気づいたと言います。「どうぞ」と言っても、返事がない、見向きもしない。つまり、人としての存在を認められないのです。しかし、心を込めてやるようになったら、「ご苦労様」と声が返ってくるようになった。

それが、いまの新津さんの姿に繋がっているようです。

○皆さんは、毎日の生活の中で、心を込めてやっている何かがありますか。

そう聞かれると、正直、私も答えにためらいます。

○何か生きがいを感じるような、命を懸けてやってみたいような素晴らしいことがあると良いのですが、私たちは、誰もがテニスの錦織選手や人気アーティストのようになれるわけではありません。むしろ、そういう場に登場する、きっかけすら経験できないのが普通かもしれません。

○でも日常の生活とか学校の勉強とか、バイトとか何かしらはやって毎日過ごしています。

まずは目の前にあることを、心を込めてやることは私は大切だと思います。先ほど紹介した新津さんも、はじめは生活費を稼ぐための手段として、清掃を仕方なくやっていたのではないのでしょうか。

○過去は嘆くものではありません。未来は憂うものでもありません。過去の余韻を味わい、未来への希望を行動の原動力としながらも、今、目の前にあることに心を込めて精一杯取り組んでみる。校歌に「今を生きている君」とありますね。「今を生きる」とはそのような意味です。

何もないところから、「夢」や「夢を叶える意欲」は生じません。

今に向き合い汗を流す、心を込めて目の前のことやる。その中から、気づきや知恵は生まれます。先々への希望や夢が生まれます。そして、それはいつか志となって、何が何でもやり切るという覚悟になっていくものだと思っています。

例えば、何かの科目の授業。心を込めて受け続けてごらんください。先生は、きっとそれに気づいてくれますよ。何でも構いませんが、皆さんが、何かを心を込めてやってみようと思ってくれたら嬉しいです。

○最後に、別のお願いをひとつだけしておきます。始業式、終業式が年何回かあります。行事にカウントされているはずです。

これらの式は私にとって、皆さんに私のメッセージを伝える大切な仕事の場です。赤ちゃんがハイハイしても大丈夫なレベルになるかどうかはわかりませんが、私も心を込めて話をしたいと思っています。ぜひ友達もお誘いあわせの上、多くの皆さんが式に参加してもらえよう願いして、始業式の式辞といたします。